

せかいのうた

第一部

- ① 平調 調子（雅楽 古典曲） 演奏：吉村拓哉（香椎宮雅楽保存会）
- ② グンデルによる静かなスレンドロの前奏曲 演奏：Go On、コンサート
- ③ 天からメロディが降ってくる 演奏：Go On、コンサート
- ④ Ondas do mar de Vigo（13 世紀 スペインのうた） 演奏：Go On、コンサート
- ⑤ Alalake アララケ（西アフリカのうた） 演奏：寺崎充央（コラ）、T A K E O（ジャンベ）
- ⑥ バラフォン ソロパフォーマンス 演奏：TAKEO&あふりかじゃんぐる
- ⑦ ダブルドラゴン演奏：Go On&T A K E O&あふりかじゃんぐる&工房まる（ダンス）

第二部

- ⑧ IBU TRISH 演奏：福岡ガムラン倶楽部 LOU 作曲：Lou Harrison
- ⑨ 時の魔法：Go On&コンサート&寺崎充央&箱崎翔店 作曲：立石このみ
- ⑩ せかいのうた 朗読 佐野優馬&愛智一郎&二嶋彩子 演奏：コンサート&寺崎充央
- ⑪ ピアノ ソロパフォーマンス 演奏：TAKEO
- ⑫ ガムラン・エチュード No.1 演奏：Go On&コンサート 作曲：藤枝守
- ⑬ ワークショップの時間：会場の皆さんで音を出して合奏してみましょう
- ⑭ 雨と月、世界のうた、ありがとう 演奏：Go On&T A K E O&あふりかじゃんぐる&会場の皆さま

せかいのうた

平成 31 年 3 月 23 日 (土) なみきスクエア なみきホール

開場 12:30 開演 13:00

ごあいさつ

今回のイベントタイトルである「せかいのうた」は、Go On のセッションの中で生まれたメロディの名前です。Go On メンバーによる即興的なセッションの中で、音の渦に包まれながら、清々しい気持ちになることがあります。「せかいのうた」という曲は、即興的な演奏空間の中で、音どうしが響きあい、リズムを形成し、時には差異が生じ、それが崩れ、また同調しあいながら、うねり重なりあいながらリズムやメロディが聞こえてくる「遊び場」のような状態から生まれました。

平成 30 年度は、このような「遊び場」をワークショップという形で開催することによって、事業所を超えて参加者が集い、交流からうまれる表現の可能性を模索してきました（平成 30 年度「福岡県障がい者芸術文化活動推進費補助事業」として実施）。今回の公演では、ワークショップにご参加いただいた箱崎翔店や工房まるのメンバーと一緒に一つの舞台に立ち、披露する機会となりました。

アフリカンパーカッションやガムラン、ルネッサンス時代以前の古楽器、雅楽の楽器など、時代や国も様々な渦巻く楽器や音による新たな場ができればと考えています。また、スペシャルゲストとして、TAKEO さんを迎え、ワークショップ参加者や福岡の演奏家と共に、この「遊び場」を舞台表現として創出できることを嬉しく思います。

社会福祉法人 明日へ向かって 音楽活動ディレクター 渡辺 融

挿入歌について

- ・日本の雅楽古典曲である『調子』は、雅楽の楽器どうしのチューニングが曲として様式化したものと言われています。
- ・13 世紀スペインの中世吟遊詩人による抒情詩『Ondas do mar de vigo』は、甘美な単旋律のメロディの上に Vigo の海に向かって恋人を想う歌がのせられています。
- ・西アフリカに伝わる『Alalake (アララケ)』は、コラ（弦楽器）とともに歌われることが多く、「すべてのことは、神さまのみぞ知っているので、前向きにいきましょう。」という意味がこめられています。
- ・『IBU TRISH』は、アメリカの現代作曲家 Lou Harrison による現代ガムラン曲で、インドネシアのスンダ地方のガムランの記譜法によって書かれています。

ガムラン・エチュード no.1 「そのとき虹が見えたよ」(2019、初演) 解説：藤枝守

本日の公演にあわせて「明日へ向かって」の委嘱により「Go On」のために作曲。シンプルで短いメロディがガムランやさまざまな古楽器のなかで受け渡され、重ねられていきます。また、愛智さんの詩の一節も織り込まれています。

このメロディは、じつは、香椎宮の御神木である「綾杉」の電位変化のデータをもとに作られたものです。神功皇后によって植えられ、計り知れない年月を生きてきた綾杉。この御神木のような大樹には、精霊たちが宿っているといわれています。その精霊たちの声がメロディとしてガムランの響きのなかから浮かび上がってくるかもしれません。今後、この綾杉のデータをもとに、「Go On」のために全部で 5 つの「ガムラン・エチュード」をシリーズとして作曲する予定です。